



編集長(ダン シロウ)

■ 学会ニュースレターの役割(大会告知、例会情報など)も最小限果たしながら、大部分は学会員有志の「対人援助領域における様々な論考と実践報告」を連載してもらって、WEB上で公開しているのが対人援助学マガジンです。

読者は、一部分でも、全体でも、ダウンロードも、プリントアウトも自由に選択して読むことができます。

そこで私は、執筆者だけに一冊ずつ、印刷版を作成してプレゼントしてきました。本編はWEB上のカラー誌面のものですが、印刷製本版は全面カラーというわけにいかずモノクロ。そういう意味では不完全版です。

にも関わらず、今まで印刷版を作ってきたのには理由があります。「文芸首都」、長く刊行されていたと聞く自費出版物です。保高德蔵が世話人を三十年以上続け、多くの作家を輩出した文芸同人誌です。

学会ニュースレターは文芸の同人誌とは異なります。しかし、学会の持つ閉鎖性や特権性に、私はかねてから違和感があって、「対人援助学マガジン」は社会科学世界の同人誌でありたいと思っています。

ここから様々な場所に向かって、執筆者の発信が出来ればと思っています。ベテランの方達には既にそれぞれいくつものステージをお持ちでしょうが、ここはこころしく関わっていただければと思います。そして、今からの人達にとっては、自由に使える踏切台になればと思います。

■ **新連載**が又二本、**乾さんと袴田さん**です。それぞれ、新しい切り口からの参入です。お楽しみ下さい。

■ 本誌連載中のものがまもなく、一冊の本になります。荒木晃子さんの不妊治療現場の問題です。他にも様々なかたちで、いろんな場所に、飛び出してゆく人が輩出することを願っています。

ですが一方で、WEB版という自由性の高い手段(主に、売れなければならぬとか、多くの読者を引きつけなければならぬとかいう営業的ノルマからフリ

ー)をとっているのですから、マイナーな素材やテーマを取り上げることも大切な役目です。

少数の人しか読まないかもしれないけれども、記録しておく必要があることを残す。ここにもマガジンの役割があると思っています。

是非、まだ触れられていないジャンルからの、対人援助的取り組みの報告をお寄せ下さい。

編集員(チバ アキオ)

対人援助学会の研究会が年4回、キャンパスプラザ京都6階の第1会議室(立命館大学の部屋)で行われている。この研究会は対人援助学会発足前から、対人援助学会準備会として、2005年5月からスタートして、先日通算31回目を迎えた。研究会にたくさんの方が参加していただくことだけが目的ではないが、先日は多くの方が来てくださった。参加に関しても、学会員、非学会員を問わず、無料で、事前申し込みも不要。学会が学会員のためだけに、何かをもたらすのではなく、社会に学会があり、その学会の社会への貢献をより多くの人に提供しようというのが狙いの一つである。前半は、ゲストスピーカーを迎えお話をいただき、後半は参加者が小グループになり、自己紹介、今日の感想等を話し合う仕組みだ。数回参加していると、たくさんつながりもでき、京都を中心とした援助職のネットワーク作りにも一役かっている。こんな活動を応援したいと思ってくださる人が、学会に入会という形でサポートしようと思っていたらという側面も含まれている。

こないだは障害者の福祉事業所でもあるNPO法人Swing 木ノ戸昌幸施設長の活動報告であった。Swingさんは、ただの福祉現場にとどまらない。現行の障害者の福祉制度とは真逆ともいえる長期スパンでの支援、揺れる(Swing)こと、たのしむこと、役に立つことをしたり、しなかつたりを公言し、キャッチコピーの力(『オレたちひょうげん族』という表現活動等)、洗練されたデザイン、ツイッター、フェイスブック、ネット販売等の活用などなど…。利用者、援助者が一緒に多くの経験、体験を長く共有することで、専門的な援助関係にとどまらない、人と人との関係の側面を認めてもいる。これまでアカデミック、倫理性というところで、スポイルされてきた福祉の仕事の魅力も再確認できた。人としての営みに必要なユーモア、楽しみ、表現は欠かせない等を考える素敵な会になりました。木ノ戸施設

長ありがとうございます！皆さんも興味がありましたら、この研究会にも足をお運びください。学会ホームページ、学会メーリングリストで毎回ご案内させていただいております。

■ ご意見・ご感想 ■

マガジンに対するご意見ご感想
danufufu@osk.3web.ne.jp

学会時にも販売しましたが印刷版対人援助学マガジン（1号～7号各1000円・全巻統一価格にしました）が少数ですが編集部にあります。ご希望の方はメールでお知らせください。メール便で発送します。

マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

対人援助学マガジン

通巻8号

第二巻 第四号

2012年3月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第9号は2012年6月15日発刊の予定

です。原稿締め切りは5月25日！

対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学大学院応用人間科学研究科内

TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

対人援助学会事務担当

入会・退会・変更届

〒540-0021 大阪府中央区大手通2-4-1
リファレンス内
TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

表紙の言葉

イラストは、映画「めまい」について書かれ記事に添えたもの。イラストレーターとして受けていた中日新聞に二年ほども連載した仕事の中の一枚だ。

この作品の監督、アルフレッド・ヒッチコックはご存じの人も多いと思う。私が思春期の頃、TVで「ヒッチコック劇場」なるものがあって、話題になっていた。今、このシリーズがDVDになって同梱されたものが雑誌として発売されている。（宝島社）

根強い人気があるのかもしれないが、どうも私には、業界人に限って高だけのような気がしてならない。なぜなら、私の知り合いで、ヒッチコック好きはいないからだ。

映画好きは多いし、ミステリー、サスペンス好きも多いが、その人達も、殊更ヒッチコックの名をあげることはない。

私は結構作品を見ているのだが、「この一本！」みたいに挙げたい作品が思いつかない。「鳥」は凄かったなあとか、「サイコ」は怖かったかと思うけれども、それ以上の気持ちがない。

嫌いなわけではないが、特別にヒッチコック作品への思い入れを語る者が周囲にいないという話だ。

だが、映画業界の人はおしなべてヒッチコックが好きなようだ。彼にまつわる本はたくさん出ていて、映像づくりの話題展開は非常に面白い。やはり、制作側にとって、様々な方法やヒントをくれる作家なのかなと思う。

自作品のシーンに必ず監督自らが登場することは有名だ。大きなお腹のプロフィールはヒッチコックのロゴのようにも見える。

2012/3/15 団士郎